

小学生版

あたらしい児童書 NO. 292 2024. 6. 15

遠軽町図書館  
遠軽町大通南4丁目  
TEL 42-3632

本が見あたらないときは、かかりの人に聞いてね。予約もできます。新しい本は他にもあります。小初は1・2年、小中は3・4年、小上は5・6年をめやすにしてください。

『さかのうえのねこ』 itou mikuro / 作

・坂の上につた家で、しあわせに暮らしていた猫のエステラ。ある日、おかあさんは「エステラ、いいこで待っていてね」と言って出かけていきました。ところが、夕方になっても、夜になっても帰ってこなくて…。  
(小初)



『あいたくてたまらない』 okuyama yuka / さく

・仲良しのやどかりぼうやと離ればなれになってしまった桃色の貝。そうたは、ふたりを再会させるため、貝をもとの海に連れていきますが…。  
あったかくてクスッとおかしい物語。(小初)



『おしりたんてい あらたなるかいとう』 saku・e / トロル

・国際的犯罪組織のボス、かいとうGが発明したガジェットをつけられたおしりたんていは、「かいとうO」として、あるミッションに挑むことに…。絵探しをしながら犯人を探す、謎解き探偵読み物シリーズ第11弾。(小初)



『となりのじいちゃんかんさつにつき』 nanamori sachi / 作

・小学校の夏休みの宿題の定番「あさがおのかんさつにつき」。うっかり枯らしてしまった、ようたは、こっそりとなりの家のあさがおを観察することに。すると、そこに一人で住んでいる、じいちゃんの様子がなんだかあやしくて…。(小初)



『資料室の日曜日 にげたひこぼしをさがせ!』 murakami shiko / 作

・ここは、せんねん町の、まんねん小学校の資料室。ある時、鹿のはく製が、歯を1本、落としてしまいました。資料室のみんなで探しに出かけると、いなくなったひこぼしを探しにきたおりひめと出会い…。日曜日シリーズ。(小初)



『落語絵本 ねこのさら』 川端 誠

・宿場はずれの茶屋でお宝を発見した目利きの骨董屋。ところが茶屋の主人は、まったくそれに気づいていない。お宝を手に入れようと、骨董屋はある作戦に打って出るが…。滑稽噺として有名な落語を描いた絵本。(小初、小中)



『おばけは今日、』 作・絵 / はせがわ まい

・天気の良いある日。おばけが、朝起きて、家を出てお散歩に出かけると? 誰も歩いていない静かな住宅地、休日の学校、喫茶店、公園の足漕ぎボート…。おさんぽ好きなおばけの穏やかでありふれた日々を描いた絵本。(小初、小中)



『西遊記 16 化の巻』 齊藤 洋／文

・三蔵法師の一行は黒松の森で、木にしばられている女を見つけた。悟空はあやしみながらも、三蔵に命じられて女を救い出し、近くの禅寺まで連れていくが、三蔵の身に異変が…。世界最強のファンタジーアドベンチャー第16弾。(小中、小上)



『全国小学生おぼけ手帖 とぼけた幽霊編』 岩田 すず／作

・ホラー作家・田辺青蛙が、自身が開催する子ども怪談会で聞き集めた不思議な話やこわい話を、コミカルにまとめた小学生実話怪談集。「血まみれぞうきん」「入れ替わり鏡」「14番の席」など、全33話を収録する。(小中、小上)



『ナゾロリ おうごんのようかいサーカス事件』 原作／原 ゆたか

・いろいろな事件現場になぜかいるゾロリ。ひたすら推理のじゃまになるゾロリ…。「あらしをよぶ巨大ロボ事件」「おうごんのようかいサーカス事件」など、ゾロリが事件をややこしくする短編ミステリー全6話を収録。(小中、小上)



『紫の女王』 小森 香折／作

・国々の陰謀と前世からの因縁により、王都は危機のときを迎えた。そして<青の読み手>ノアは、自分が何者であるかを知り…。「青の読み手」「紅の魔女」「黒の皇子」に続く、一冊の本をめぐる長編ファンタジー。(小上)



『ねがいの木』 岡田 淳／文

・おばさんが話してくれたのは、「ねがいの木」のお話。木は、ある時は町をつくり、ある時は戦争をおこし…。「人には愚かさに気づき、憎しみ合うのをやめる力がある」と信じる作者の思いを伝える。『日本児童文学』掲載に加筆。(小上)



『電子仕掛けのラビリス』 石川 宏千花

・SNSと距離を置く中3の夏子。だが親友のユキナは、SNSの無料アプリ「HOOP」で出会った男性とのやりとりにのめりこんでいく。ユキナを止めようとする夏子の前に謎の少年が現れ、ある警告を送り…。(小上)



『じごく小学校 3 いつの世も帰るまでが遠足です?!』  
有田 奈央／作

・いたずらの天才・板図良強さんは、じごく小学校の校長先生から、書いたいたずらがほんとうになる“いたずらペン”をもらった。しかし、「そのペンを1日3回使ったら、じごく小学校に連れていく」と言われてしまい…。(小)



『もののけdiary』 文／京極 夏彦

・独特の不気味さとユーモラスで妖怪物語の最高峰と呼ばれる、江戸中期の物語「稲生物怪録」からうまれた妖怪絵本。主人公の稲生平太郎と人間を怖がらせにくる妖怪たちとの不思議な交流を描く。各ページ折り込み仕様。(小、中、高、般)

